

AICHI
PREFECTURAL
MUSEUM
OF
ART

MEMBERSHIP

愛知県美術館友の会 会報 第47号

空中回廊

企画展：「地球・爆 —10人の画家による大共作展 Earth Attack」

会員のひろば：懇親日帰りバスツアーレポート

友の会講座、総会記念講演会

愛知県美術館所蔵作品の画像利用について

愛知県美術館コレクションから

グスタフ・クリムト《人生は戦いなり（黄金の騎士）》



グスタフ・クリムト《人生は戦いなり（黄金の騎士）》

地球★爆

Earth Attack

10人の画家による
大共作展

2019年11月1日(金)～12月15日(日)

「地球・爆」は、日本の1960年代のポップアートを代表する画家・岡本信治郎(1933年 東京生まれ)を中心とする10人の画家—伊坂義夫(1950年 東京生まれ)、市川義一(1943年 東京生まれ)、大坪美穂(1945年 北海道生まれ)、小堀令子(東京生まれ)、清水洋子(1942年 東京生まれ)、白井美穂(1962年 京都生まれ)、松本旻(1936年 大阪生まれ)、山口啓介(1962年 兵庫生まれ)、王舒野(1963年 中国黒竜江省生まれ)—による絵画プロジェクトです。

2001年に起こったアメリカでの同時多発テロ事件に呼応して岡本と伊坂が企画し、彼らの呼びかけに8人の画家が賛同して加わりました。(岡本は批評家にも声をかけています。岡本は絵画制作を批評的行為と考えているために、批評家も画家とほぼ同類なのです。)さて、構想段階からアイデアを持ち寄り、メンバーで議論を重ねて「共作」するというアイデアのもと、2003年に着手。元となる全決定稿がそろったのが2007年9月で、そこから本画の制作が始まります。そして、公開ぎりぎりまで、制作や修正が続けられる予定です。2013年2月にすでに完成していた第1番は、同年開催の「あいちトリエンナーレ2013」で岡本の大作と一緒に

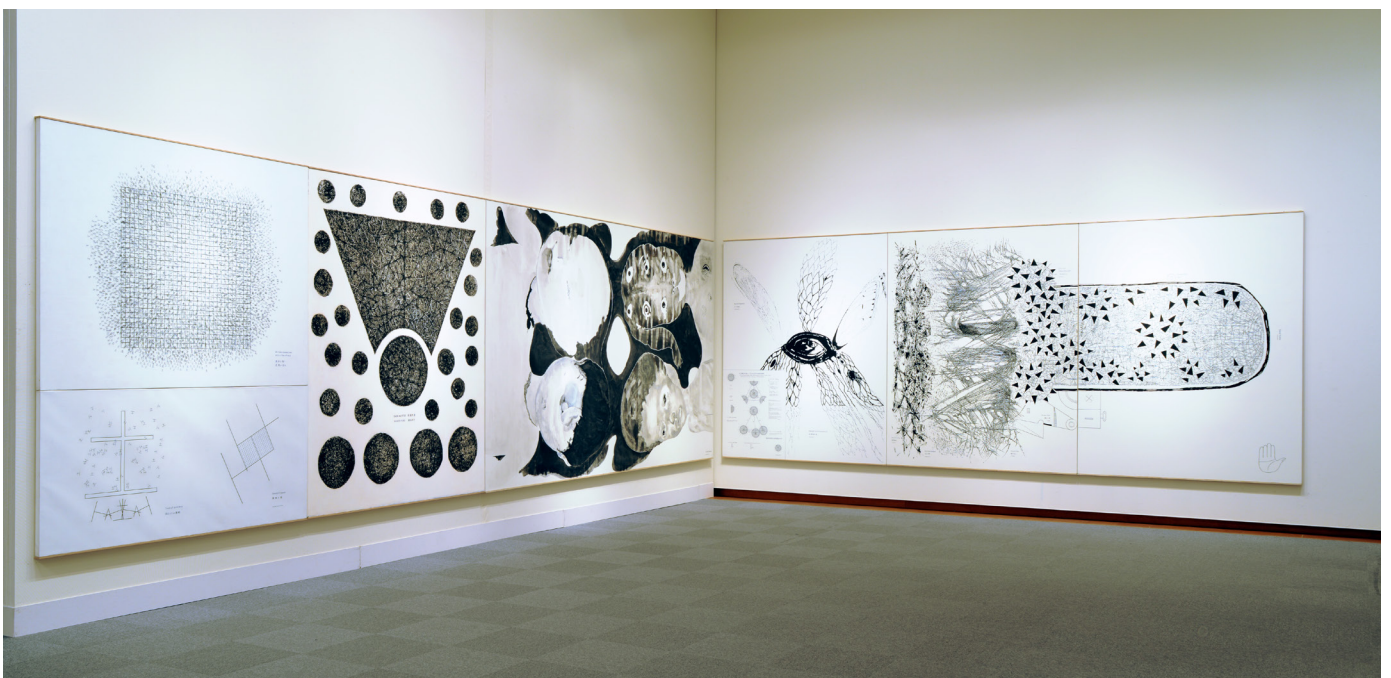
紹介されました。最終的には第11番まで構想され、制作されていく予定です。

このプロジェクトは、1945年の東京大空襲や、広島と長崎への原爆投下、世界各地で今なお生じている紛争がもたらす、爆発が地球とそこに暮らす人類にもたらすものをテーマとしています。ただ、こうしたテーマの深刻さとは裏腹に、平面的で、単彩による軽やかな描線の表現スタイルを特徴としています。描かれる主たるイメージは抽象的ではなく具体的で、マンガ的とも言えるような表現もあり、従来油絵表現に対する反発もあります。これは岡本が少年期に親しんでいた国内のマンガ文化、さらには戦後にアメリカから入ってきたイラストレーションやデザインから影響を受けているように思います。岡本は凸版印刷のアーティストディレクターでもありました。

このプロジェクトのリーダー的存在である最年長の岡本は1933年東京生まれですから、1945年の東京大空襲の当時はまだ少年で、日本の勝利を心から信じていたようです。岡本は疎開先の東京郊外からこの空襲を見て衝撃を受けます。岡本は1950年代後半には作家としてデビューしていますが、戦争を絵として描けるようになったのは1980



伊坂義夫、大坪美穂、岡本信治郎、小堀令子、清水洋子、白井美穂、王舒野 「地球・爆—Earth Attack」第1番(部分)2013年 アクリル、キャンバス 作家蔵



伊坂義夫、岡本信治郎、小堀令子、清水洋子、松本晃、山口啓介、PHYTAGORAS³（覆面作家）「地球・爆—Earth Attack」第1番（部分）2013年
アクリル、キャンバス 作家蔵

年以降のことです。1981年に戦後世代の伊坂（1950年生まれ）と「少年戦記」のシリーズを共作で発表し、少年の目から見た日本の戦争を描きました。そして、2001年のアメリカの同時多発テロをテレビで見て、二人は改めて戦争というテーマと本格的に向きあいます。岡本はすでに60代の後半になっています。

彼らが構想するテーマの大きさとそのスケールに岡本は伊坂と二人では手に余ると考え、「共作」作業に賛同する画家たち、そして批評家たちを探すことにしました。1963年生まれの王舒野を最年少として、集まった画家たちは、作品のあり方やイメージについて議論を重ね、具体的なアイデアを出しあっています。そうした試行錯誤の中で、自らの個性的スタイルを生かして全体の表現に変化と多様性を与えつつも、この「地球・爆」はユーモアとアイロニーを湛えた、一つの「絵巻物」のように表現されていきました。

地球上では、自然の天変地異と同じように、人類自らが作りあげた最新テクノロジー兵器を使って人や都市を攻撃する戦争や紛争がなかなか無くなりません。また、写真や映像技術の進化、コミュニケーションやネットワーク技術の発達に伴い、メディアを通して即時的に世界の出来事や事件をインパクトの強い情報として、知る、写真や映像を通して見るができるようになっていきました。そのために、テクノロジーが急速に進化した20世紀以降、そしてグローバル化が加速する21世紀以降は、紛争のイメージと、我々の

普段の日常生活とが、背中合わせのようにして、あるいは相並んで、存在しているように思えます。

物語る文学には戦争の場面や挿話がしばしば背景となって登場します。日頃目にする映画やアニメ、マンガ、テレビドラマにおいても同様です。イメージを扱う美術の表現においても、遠隔地で起こっている争いごとと平穏に見える日常とが共存する現代の有様とは、無縁ではられません。「地球・爆」の絵の中で、図鑑の絵のように描かれた蝶や鳥の姿は、飛行機やヘリコプター、さらにはミサイルとなり、パチンコの機械は、戦火に燃えるビルディングと重ねられています。こうして、深刻な戦争は、画家が行うイメージの変換や操作を通して、平穏な日常生活と背中合わせになります。現実の深刻さや重みをまだ知らない子どもの目を見た、飛行機のような巨大機械のメカニズム、あるいは怪物といったものに対する憧れが潜んでいて、それらが結果としてもたらす、荒涼とした廃墟の風景と、その再生の希望的ヴィジョンも描かれます。

おそらくこの絵画プロジェクトは史上最長級で、全体で200メートルを超えます。これを広い愛知県美術館の展示室で一挙に公開します。この機会に反・戦争・絵画を体験してください。

（愛知県美術館企画業務課長 押戸雅彦）

会員限定 懇親日帰りバスツアー

2019年7月14日

見学先 静岡市立芹沢銈介美術館
静岡市立登呂博物館
静岡県立美術館

令和初の懇親日帰りバスツアー。今回は広い広い静岡県をひた走り、スイーツ充実の昼食から歴史好きにはたまらない登呂遺跡、果てはアンデスの山も覗くという、ぜいたくな旅。雨だれをかわしながらの旅となりましたが、会員同士の交流も盛んで、おしゃべりの花がそこここで咲いていました。

スケジュール

8:00

愛知芸術文化センター前集合

8:10

出発



雨も止んで順調に受付



浜名湖SAで休憩



お土産を早めに購入する人も

11:00

昼食



ホテルセンチュリー静岡のレストラン「THE TABLE」にて昼食

充実したスイーツは別腹に入ります

食後もお土産を求めて
グランドキヨスクへ

13:00

静岡市立登呂博物館



静岡市立登呂博物館前にて



入館前には芹沢銈介の家も見学



詳しい説明を聞きながらの見学です



充実した体験コーナーも見学

静岡市立芹沢銈介美術館

民藝運動のデザイナーとしても活躍した芹沢銈介。日用品から建築まで幅広いジャンルでの素敵なデザイン資料を生かした展覧会を、土手香澄学芸員の解説後、観覧しました。



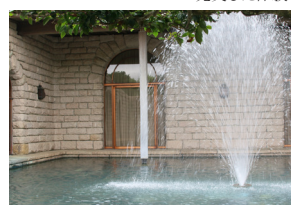
「暮らしを彩る」展
ポスター



芹沢銈介作
型染うちわ



玄関

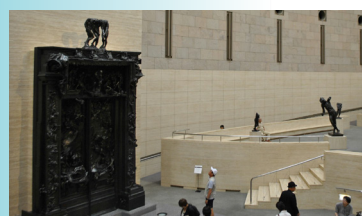


渋谷区立松涛美術館を設計した白井農一的设计。中央には噴水が見えます。

参加者の感想
とてもよくて、
もっと長くゆっくり
居たかった。建物
もよくて、若い
人が興味深く観
ていたのも印象に
残った。(T.K.)

15:00

静岡県立美術館



広々としたロダン館は格別です

「古代アンデス
文明展」は、
かなりの混雑ぶ
りでした。



参加者の感想

* 古代アンデス文明展は二回目だが、一回目よりも展示が見やすかった。ミラが怖かった…。マチュピチュに行くチャンスがあったのに、様々な理由もあって行かずにいたことを思い出しました。『行こう!』と誘ってくれたときに『行こう!』と言えばよかった…。(Y.Y.)

* ロダン館前の部屋には現代の作品も展示されていたのがよかった。(T.I.)

20:00

名古屋駅

到着

友の会講座

2019年4月21日

演題；「絵画のディテールを読む」

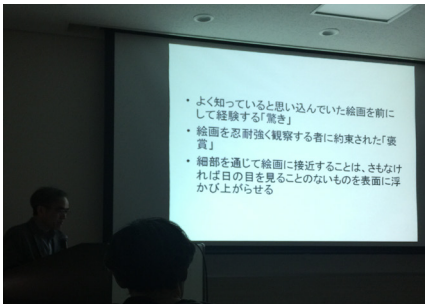
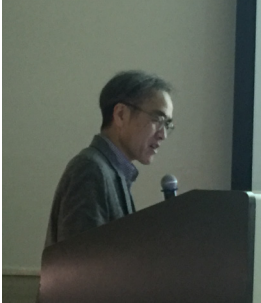
講師；木俣 元一 氏（名古屋大学文学部大学院人文学研究科教授）

人それぞれ、絵画の「みかた」がありますが、ふとした瞬間に「この鑑賞でいいのかな？」と思うことがあります。また、展覧会で絵の前に居座りじっくりと観ている人を「この人は何をこんなに観ているのだろう」と不思議に思うこともしばしば。

自分が知っていると思い込んでいた絵画の細部をよくみるにより経験する「驚き」は褒美である、といます。みる人がその気になって、積極的に対象に働きかけることよってのみ、みえるものがあるそうです。今

回は、木俣先生が「注目しているディテール（足の裏、瞳の描き方など）」を通して、「絵はどうやってみるのか」を学びました。

指摘をうけて気づいたときの驚き、感動がこれほど大きく嬉しいものであるならば、自分が興味をもって眺め、調べ、考えたことによる発見の喜びはどれほどのものになるでしょう。「正しい・正しくない」もしくは「意味がある・意味がない」ではなく、自分の琴線にふれたものを大切にして鑑賞することへの、勇気をいただいた時間でした。



ファン・デル・ウェイデンの作品などを例に、瞳の描きかたをじっくり解説していただきました

2019 総会 記念講演会

2019年6月1日

演題；「デュシャンと美術」

講師；南 雄介 氏（愛知県美術館館長）

6月1日の総会后、南館長による記念講演が行われました。演題は「デュシャンと美術」。マルセル・デュシャンといえば、便器を使った作品《泉》のイメージがどうしても離れないのですが、実は若いころは、「画家」を目指していて、あらゆる作風を試していたようです。セザンヌのような印象派、マティスのような野獣派、ピカソのようなキュビズムっぽいデュシャンの作品が紹介され、若さゆえの「迷い」とも感じられました。

そこに転機となった作品が、《階段を降りる裸体》。これは1912年のアンデパンダン展に出品予定だったのですが、ヌードとは立っているか横たわっているのが当時の常識であり、それが階段を降りてくるというのが「ありえない」ことだったようです。タイトルの変更を求められますが、デュシャンは譲らず、出品取りやめとなります。デュシャンは以降、



画家になるのをやめて、図書館で司書をしながら《泉》に代表されるような独自路線を行くようになったというのです。

ところで、デュシャンは6人きょうだいで、デュシャンを含め4人が芸術家になっています。長兄のジャック・ヴィヨン（当初、法律家を目指していたが芸術に転向したことを隠すため、デュシャン姓を名乗らず活動した）、次兄のレーモン・デュシャン＝ヴィヨンの作品は愛知県美術館にもしっかりと所蔵されていることを聞いて、「さすが、我が愛知県美術館！」と、誇らしく思いました。



◎愛知県美術館所蔵作品の画像利用について

愛知県美術館所蔵作品のデジタル画像（Public Domain 表示があるもののみ）は、自由に利用することができます。「それってどういうこと？」「どんな風に使えるの？」と疑問に思われたことはありませんか？

愛知県美術館のホームページに「愛知県美術館所蔵作品画像利用方法」が掲載されています。（詳細は以下にてご確認ください）

<https://www-art.aac.pref.aichi.jp/collection/image-licensing.html>

今回、美術館にもう少し掘り下げて説明していただきました。



Question

1

Public Domain 表示がある画像の使い方として、次のようなものは可能でしょうか？

Question

2

Public Domain 表示がある画像を使う際、守るべきことは何ですか？

Answer

使用方法	可否
自分のパソコンの背景にする	→可
携帯電話の待ち受け画像にする	→可
絵についての感想とともに、 ブログなどのSNSに掲載する	→可
Tシャツやエコバッグなどに プリントする	→可

Answer

どう使っていただいてもよいのですが、美術館としてはこうしていただけると嬉しい、という（義務ではなく）お願いとして…。

① 所蔵者名「愛知県美術館」を記載する

※但し、

木村定三コレクション → 「愛知県美術館（木村定三コレクション）」

藤井達吉コレクション → 「愛知県美術館（藤井達吉コレクション）」

② トリミング・改変を表記

例：画像をトリミングしたら → 「作品名（部分）」と表記

友の会広報より

大好きな作品をより身近に感じることができる、生活のなかに芸術を取り入れることができる機会を提供していただけたのだと理解できました。どのようにも作品を活用することは、できる。けれども使用の際はそれを見た人が作品や作家について正しく、あるいはより詳しく知ることができるように必要な情報を表示することが大切となります。積極的に活用して、多くの人々が所蔵作品に触れる機会になればと思います。

クリムトの革新性を見つける

『空中回廊』のバックナンバーを繰ってみると、《人生は戦いなり（黄金の騎士）》が表紙を飾ったのは、1997年の5号と2004年の19号の2回でした。意外と少ないという印象を持ったのは私だけでしょうか。というわけで今回は15年ぶり3回目の掲載となります。

昨年2018年はクリムトの没後100年でした。そして今年の春に東京都美術館で「クリムト展 ウィーンと日本 1900」が開催され、ほぼ同時期に国立新美術館の「ウィーン・モダン クリムト、シーレ 世紀末への道」展でも、ウィーン・ミュージアムから《パラス・アテナ》(1898年)や《エミーリエ・フレーゲの肖像》(1902年)など、クリムトの代表作が展示されました。東京都美術館の展覧会は7月から豊田市美術館に巡回するので、この号が発行される時にはすでにご覧なられた方もいらっしゃることでしょう。愛知県美術館がかつて寄託を受けていた《17歳のエミーリエ・フレーゲの肖像》(1891年)も出品されています。東京会場と豊田会場の違いは何でしょうか。愛知県美術館のリニューアル・オープンのために東京会場には《人生は戦いなり（黄金の騎士）》が展示されませんでした。豊田会場には出ていることです。

さて、《人生は戦いなり（黄金の騎士）》については、これまで多くのことが語られてきましたが、ほとんど触れられていない点があります。それは皆さんがこの作品を見たときに感じるであろう一種の違和感や心地悪さに関係しています。その違和感や心地悪さは、馬の足下から来ている。この絵の一番下の部分には、斑な金色が帯状に塗られており、馬はその金の帯の「上辺」を歩んでいます。同じ様な表現は《第1回ウィーン分離派展ポスター》(1898年)にすでに見られます。一方で馬の背景に目をやると、

この馬は花咲く草原を歩んでいるという状況があります。つまり見る人には、金色の帯の上辺を歩く馬という見方と、草原の中を歩く馬という二つの見方ができ、その両方の整合性がとれないことが違和感や心地悪さの原因になっているのです。草原や森の背景が描かれていないことを想像してみてください。黄金の騎士は、台の上に乗った騎馬像のように見えるのではないのでしょうか。逆に金の帯ではなく画面下辺まで草原の草花が描かれていたと想像してみてください。草原を進む馬に見えるはずですよ。

金色の帯の上辺を歩く馬という見方では、上辺は水平であり、われわれの視点は金の帯の上辺と同じ高さにあります。一方で、草原の中を歩く馬という見方では、われわれの視点は地上より少し高いところにあります。この作品を見る人が二つの視点を強いられるということが違和感や心地悪さの原因なのです。20世紀始めにキュビストは多視点による表現で絵画に革命を起しましたが、クリムトはこの作品でキュビストの実験を先取りしていたという見方もできるでしょう。

それでは金色の帯はいったい何を表しているのでしょうか。何も表していない、ただ金色を塗っただけの抽象的な平面にすぎません。三次元の絵画の中に二次元的要素を取り入れたところにこそ、クリムトの革新性があったのです。

グスタフ・クリムト
Gustav Klimt
《人生は戦いなり（黄金の騎士）》(部分)
1903年
油彩・テンペラ・金箔、画布
100 cm × 100 cm



グスタフ・クリムト

《人生は戦いなり

(黄金の騎士)》



学芸員の横顔

古田 浩俊

- Hirofumi Furuta -

採用が1999年で、友の会の設立が1994年です。経歴は友の会とほぼ重なります。友の会の活動を通じ、多くの会員の方々とふれ合う機会をもたことに感謝しております。



AICHI
PREFECTURAL
MUSEUM
OF
ART

MEMBERSHIP

理事会から

待ち望んだ美術館のリニューアルオープン。利用してすぐに気づいたのが、トイレの洋式化でした。以前 mini 空中回廊で紹介したように、壁や床、照明などにも手が入っていますので、自分の「記憶」との違いを見つけるのも楽しみのひとつです。

そしてリニューアルオープン記念の全館コレクション企画「アイチアートクロニクル 1919-2019」も素晴らしかったですね！「何度も観に行った」「気づいたら3時間いた」という声も。

もう一度振り返りたい、もっと深く知りたい、という方には今回の図録を確認されるこ



とをオススメします。ネットサーフィンでは知ることのできない、綿密な調査による研究結果が収められています。また巻末の年表も、自分史とアート史を重ね合わせることができますので会員の必須アイテムです！！

また、あいちトリエンナーレ2019では多くの問題提起もあり、芸術表現と社会との関わりについて深く考える機会となりました。美術館を支援するとともに「表現の自由」について、今後も関心をもって鑑賞したいと思います。

(友の会会長 小林克敏)

編集後記

クロニクル展で見た所蔵作品は、リフレッシュでもしたかのように一つ一つの輪郭がはっきりとしていました。立ち位置も明快で、互いを思いやる余裕さえ生まれている——身近にある物の良さを忘れてかけていました。

- 編集 松下智子 稲垣真美代/井上真紀子/喜田泉/小林克敏/冨永晃一/森健次
- 協力 愛知県美術館
- 発行 2019年10月

第47号 友の会活動紹介

2019年3月～2019年10月

★…中面でご紹介しています

3月

定例活動のみ



「アイチアートクロニクル 1919-2019」展の解説に熱が入る副田学芸員

4月

特別鑑賞会
友の会講座
(木俣元一氏)★

5月

定例活動のみ



2019年度の総会を実施

6月

友の会総会
記念講演会
(南雄介館長)★

7月

懇親日帰りのバスツアー
(静岡方面)★
鑑賞会
・豊田市美術館



村田館長から「クリムト展」の説明を聞く

8月

トリエンナーレ鑑賞会
・愛知県美術館
・名古屋美術館



9月

トリエンナーレ鑑賞会
・豊田市美術館

10月

定例活動のみ



定例活動 (2019年3月～2019年9月)

所蔵品管理	モニター	発送	受付 <small>イベント</small>	広報	ホームページ	理事会
15回	1回	3回	6回	4回	随時更新	9回

友の会から

★イベントへの申し込み

Web ページからのイベント申し込みも可能に なっています。
新しい情報は随時更新しますので、ご確認ください。

友の会 これからの活動予定

11月

企画展特別鑑賞会
カラバジヨ展鑑賞会
友の会講座

1月

企画展特別鑑賞会
友の会講座

これからの展覧会のご案内

地球★爆

Earth Attack
10人の画家による
大共作展

2019年
11月1日(金)
～12月15日(月)

コートールド美術館展

MASTERPIECES OF IMPRESSIONISM : THE COURTAULD COLLECTION

魅惑の
印象派
2020年
1月3日(金)
～3月15日(日)

友の会入会のご案内

友の会の詳しい活動内容を知りたい方、入会をご希望の方は事務局(右記)までお問い合わせください。入会のご案内パンフレットやホームページでも詳しく紹介しております。ぜひご覧ください。

★愛知県美術館 10階受付 ★友の会事務局

愛知県美術館友の会

〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13-2
愛知県美術館内(愛知芸術文化センター10階)

tel.052-971-5511(代)
(火・木・土10:00～16:00)

fax.052-971-5617

愛知県美術館友の会

検索



info@apmoa-tomo.com

愛知県美術館ホームページ

www-art.aac.pref.aichi.jp

twitter

@apmoafriends

メールアドレスが
かわりました